

週刊

# 教育資料

No.1516

3月25日号

2019年



潮流

募金型自販機で社会貢献

亀岡加奈枝 / 認定NPO法人ジャパン・カインドネス協会事務局長

校長講話

「校長先生の話は種本を見るから長くなる」のでしょうか?

西林幸三郎 / 大阪芸術大学短期大学部保育学科長・教授

教育問題法律相談

別居親から生徒宛ての手紙の取り扱い

澤田稔 / 弁護士

## 教育の危機管理

なぜ、いま校則の見直しか一学び育てる校則へ  
安藤博 / 子ども法学者

## マイオピニオン

教育実習前のCBTを一緒に開発しませんか  
山下一夫 / 鳴門教育大学学長

## 資料

平成30年度青少年のインターネット利用環境実態  
調査・調査結果(速報概要)  
内閣府

## 亀岡加奈枝

かめおか・かなえ ©新潟県出身、1967年生まれ。求人広告会社に勤務。出産・育児後、2003年よりNPO法人ジャパン・カインドネス協会職員となり、2018年に同協会の事務局長に就任。



亀岡加奈枝氏に聞く

認定NPO法人ジャパン・カインドネス協会  
事務局長

潮流◆題子奥野誠亮

潮流

## 募金型自販機で 社会貢献

「この潤いが小さな社会貢献へ」の  
キャッチフレーズで飲料水の自動販売機で  
募金ができる仕組みを普及してきた。  
寄付文化の裾野を日本に広げたいという。

気軽に寄付ができる場を提供

——「ゆび募金」という仕組みの普及を進めてきました。

「この潤いが小さな社会貢献へ」という呼び掛けで、1997（平成7）年に募金ができる自動販売機の設置と普及を目的にして活動を始めました。2017（平成29）年には、認定NPO法人として東京都から認定を受けました。福祉や環境、国際貢献、子どもの支援などに取り組んでいる公益非営利活動団体に対して、これまで1億5000万円余りの支援金を寄付してきました。大きな災害時などでは一時的に寄附金などが集まるのですが、私たちは創立当初から日常的に寄付をする文化を日本に根づかせたいという思いがありました。そこで、誰でも気軽にできる募金の仕組みを提案し、自販機メーカーや飲料メーカー、自販機を設置していただける企業や団体、地域などのご協力が得られるようにしてきました。

——「ゆび募金」という名称もユニークですが、どのような仕組みなのか。

私たちの身近にあって、継続的に募金などの支援ができることが大切です。募金での支援を受ける団体側も、一時的ではなく



て、継続的に資金面などの支援が得られることで、社会貢献の活動も安定して行えることがこの仕組みの強味です。

私たちは、気軽に指で募金ができるように、飲料水の自動販売機を「ゆび募金自販機」にして、飲料水1本につき、2円が寄附金になる仕組みを考えました。写真のように、募金ができる自販機であることの説明や、寄付先の団体の活動内容や寄附金の使われ方を説明したパネルがあるのが特徴です。募金ができること、その募金がどのような団体のどのような活動に生かされているのが、その場で分かるようになっています。

また、半年に一回、募金額などを集計したかが、一円単位で分かるシールを自販機に貼っています。「ゆび募金自販機」を設

置していただいている企業には、支援を受けている団体の活動報告も含めて報告するようになっています。

——例えば、どのような団体や活動に対して寄附金が送られるのですか。

写真の「ゆび募金自販機」の場合、「東北3・11基金」として、東日本大震災で被災した子どもたちの支援に使われます。例えば、原発事故による影響を検証したり、子どもたちの健康の見守りに取り組む、福島県内の団体に寄付されています。募金の寄付先などは詳しくは、私たちのホームページでも公表していますが、公益財団法人交通遺児等育成基金、世界の子どもにワクチンを日本委員会、国境なき医師団日本、特定非営利活動法人国連WFP協会など、福祉や環境、国際貢献、東日本大震災関係の団体など約40団体への寄附金として生かされています。

## 企業内や薬局などに設置

——「ゆび募金自販機」の仕組みは分かったのですが、どこに行けば置いてあるのですか。

以前は「ヤフーマップ」で表示されるようになっていましたが、残念ながら現在は

なくなっています。私たちの団体の事務所は東京都の国立市にあります。ビルの前にもオーナーさんのご協力で設置しています。以前、夏休みの宿題で「ゆび募金自販機」のことを調べたいと小学生から電話で問い合わせを受けて、設置している企業の許可を得て、見学することもありました。

残念ながら、設置の台数がまだ少なく、賛同してくださる企業の事業所内に設置したり、薬局などに設置しているケースがある程度です。ただ、このような自販機を目にして、現金を持ってきて「この団体に寄付をしたい」と薬局に来た方もいました。

——寄付というを通して、身近にできる社会貢献について、広く知ってもらうことも必要ですね。

そうですね。社会貢献であるとか、ボランティアというところ、「自己犠牲」というイメージでとらえる方もいますが、そのように大げさにとらえるのではなく、日常生活の中で、ちょっとした意識を持つことで、気軽にできる活動もあることを、知ってほしいと思いますし、これからの時代を生きる子どもたちにも、このような貢献の仕方があるということを知ってほしいと思います。

先ほど、私たちの事務所の前に「ゆび募金自販機」を設置しているという話をしましたが、たまたま小さな子どもを連れられた親子がこの自販機の前にいるのを見かけたのですが、子どもが寄付ができる自販機の説明を見て、「お父さん、この自販機で買おうよ」と声をかけていました。とても嬉しいなと思うと同時に、小さなうちから、自分で選んで能動的に行動する意識が育つ機会になると良いのではと感じました。

## 寄付の文化を身近なものに

——この自販機を活用する募金のシステムというアイデアは面白いですね。

実は、世界中に自動販売機はありますが、日本の自販機はかなり優秀です。今の自販機は、飲料水を一つ買うと、メーカーに、どこで、何がどれだけ売れたかの、データが分かるようになっていきます。この販売データがしっかりとれるために、募金のシステムもそれに乗っかるだけです。募金箱を設置したり、その管理をしたりするのは大変ですが、自販機による募金システムですと、その心配がなく、安全に確実に募金ができる、支援先に正確に届けることができます。

もっとも、日本国内には自動販売機が約

240万台あると言われています。これらが全て募金ができるシステムになれば全国どこでも、気軽に寄付をするという習慣ができるのではないかと思います。最近では、寄付ができる自動販売機自体は、他団体やメーカー主導も含めて、増えつつあります。ただ、中には自販機の設置そのものが目的になっているものもあり、そうならなかったのでは本末転倒ですし、寄付金の額や使われ方まで報告がしっかりできる体制が必要と考えています。寄付ができる自販機はあくまで「手段」であって、誰もが気軽にできる寄付の文化を根づかせるという私たちの団体の目的を訴えていく必要があると思っています。

——「ゆび募金自販機」は、現在のところ、企業内や薬局などに設置されているとのことですが、学校などの教育機関での例はありますか。

わたしたちの活動の趣旨に賛同していただき、ある公立高校に設置したことがあります。高校生に福祉について身近に感じてもらうことをねらって、福祉協議会などへの寄付をしてもらいました。公立の施設の場合は、営利目的の自販機の設置ということもあって、難しい面もありますが、日常生活の中で福祉や寄付について意識をし

たり、考えたりするきっかけになればと期待しています。

——学校の関係者にひと言。

先ほども言いましたが、社会貢献という大きなイメージでとらえられがちですが、私たちの団体の趣旨に賛同していただいて、会社内などに「ゆび募金自販機」を設置していただいている大手の企業では、社会貢献の部署があったり、社員が社会貢献で活躍することが当然という意識や文化が育ちつつあります。私たちが進めている「ゆび募金自販機」の普及という点では、20年以上活動を続けてきましたが、まだまだ台数自体が限られていますので、実際に子どもたちや先生方が目にする機会は少ないかも知れません。

しかし、身近な生活の中でも、このような募金の仕組みを活用することで、寄付の文化が根づいていくことで、社会への自分の関わり方を、体験を通して考える機会になると思います。学校の敷地内に設置するというのは難しいかも知れませんが、自販機を使って募金ができる仕組みのあることを、子どもたちに伝えていただければと思います。

認定NPO法人ジャパン・カインドネス協会  
会 || <https://www.jkkyoukai.com/>